

令和7年度第1回伊勢市総合計画審議会 議事要録

◆日時 令和7年7月9日(水) 18:30~20:15

◆会場 シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢 4階大会議室

◆出席委員

下野功純委員、藤本美保子委員、山本政善委員、伊坂弘子委員、竹澤尚美委員、鈴木まき委員、森口留美子委員、村田典子委員、村田久実委員、西村幸泰委員、伊藤良栄委員、藤原寛仁委員、板井正斉委員、林孝昭委員

◆欠席委員

河井英利委員

◆出席職員

情報戦略局(情報戦略局長、情報戦略局参事、企画調整課長、同企画調整係長、同主査、同職員)
環境生活部(環境生活部長、環境生活部参事)、教育委員会事務局(事務部長)
健康福祉部(健康福祉部長)、危機管理部(危機管理課長)
産業観光部(産業観光部長)、都市整備部(都市整備部長)
総務部(総務部長)、上下水道部(上下水道部長)、消防本部(消防長)

◆議事概要

1 会長・副会長の選任について

委員の互選により、会長に板井正斉委員、副会長に村田典子委員を選出。

2 第3次伊勢市総合計画・後期基本計画の策定について

・後期基本計画の策定について伊勢市総合計画審議会へ諮問

(1) 分野別計画の暫定総括について

《意見・質問など》

○分野1 自治・人権・文化

- ・高齢化が進んでおり、地域活動が活性化しにくい。定年延長により、退職してゆとりができる頃には地域で頑張ることができなくなってきた。
- ・生活・意識の多様化が進むことは良い一方、皆が同じ方向に向かうことが難しく、人と人がつながりにくくなっている。これを踏まえて対策を打っていく必要がある。
- ・令和8・9年に行われるお木曳行事は多くの地域で取り組まれている。この機を活かして、地域の活性化、人と人のつながりのきっかけにして、地域の再構築につなげていきたい。
- ・伊勢の女性団体は県内の中でも頑張って活動している。花壇の整備、防災炊き出し、各種イベントへの参加など、地域密着の活動を大切にしている。一方で、若い方が加入してくれないという課題がある。

○分野2 教育

- ・市内には32校の小中学校があるが、学校施設の改修基準はどうなっているか。
→トイレ改修は洋式率が低いところから、また、施設は古い順から改修を進めることが原則であるが、現場の状況を確認して決定している。

- ・学力向上推進事業推進校は、どのように選定しているのか。
→各学校からの希望を聞いて決定している。
- ・全国学力・学習状況調査では、三重県は全国で中位の 24 番目である。全国上位の取組を真似して学力向上を図れないか。
→児童・生徒の学力向上のためには、まず教員のスキルアップが重要であることから、長期休暇を利用して教員研修を実施している。

○分野3 環境

- ・これまで取り組んできた勢田川七ツ大そうじも、本年度で第 30 回を迎えた。以前は、とても汚い川で、大そうじで自転車やタイヤなどが出てきたが、関係者のご尽力のおかげで、今はとてもきれいになった。
- ・環境意識の醸成は、子どものころから取り組むことが大切であると考えており、幼稚園を回ってごみ分別の紙芝居の出前講座を開催したり、いせトピア夏まつりなどで子どもが環境を楽しく学べる機会を設けている。今後は、食品ロス削減に向けて親子調理教室を企画している。

○分野4 医療・健康・福祉

- ・地域で支え合いを行うには、様々な人の力を借りなければいけない。各サポーターは高齢の方が多いが、人生経験が豊富でコミュニケーション能力が高く、ひきこもりや認知症の支援につながっている。現在は、養成講座を修了した人と支援を求める人をマッチングすることが課題である。
- ・研究でもソーシャルキャピタル（社会関係資本）と健康寿命の延伸との関係が注目されており、特に女性において地域とのつながりが強いという点も影響しているのではないか。
- ・健康寿命は、もともと高い数値で、それを維持している状態であっても「c（未達成の見込み）」という評価は厳しいと感じる。健康寿命の延伸に至るまでの介護予防などの取組を指標にするのがいいのではないかと。また、目標値の設定においては、数値を上げるという観点だけでなく、適正値の見極めが大事である。

○分野5 防災・防犯・消防

- ・避難所運営マニュアルについて、行政から言われて義務的に策定するのではなく、地域がその必要性を理解して策定するよう促してほしい。地域にいる防災コーディネーターや団体等と連携して取り組みを進めてほしい。
→誰のためのマニュアルかということを地域に認識してもらうことが大切である。少しずつの歩みではあるが、担当職員が地域に入って取組を進めているところである。

○分野6 産業・経済

- ・観光関係者として、お木曳行事・遷宮に向けてオーバーツーリズムと言われるくらい観光客に来ていただければ嬉しい。現在は、大阪・関西万博に人が流れていると言われており、積極的に参加して、工夫して魅力の発信をしてほしい。
- ・各種ツアー造成はよいことであり、更なる磨き上げを期待したい。
- ・多くの観光客に伊勢で宿泊してほしい。二見地区で夜間イベントの開催に取り組んでいる。また、河崎地区で空き家を改修した分散型ホテルが開業した。空き家の活用を検討してはどうか。
- ・観光情報の発信は良い取組を多く実施してもらっている。ブログ・SNS・YouTubeなども

活用し、インバウンドを含め、より多くの人にPRしてほしい。

- ・ダイバーシティ観光において、多様な視点を踏まえた受入環境の整備が大切になってくる。地域の交通インフラや観光案内の充実、体験型コンテンツの開発など、行政と関係者が協力して取り組む必要がある。
- ・就労のための各種セミナーやインターンシップの取り組みなど評価できる。一方で、大学進学や就職を機に市外・県外へ転出する若者が多いことは課題である。学んだ専門知識が活かせる職場が少ない。現状でもそのような企業が存在しているかもしれないが、企業誘致を進めてほしい。
 - 高校生や大学生になると進路がすでに決まっていることが多いため、昨年度からキツザニアの協力のもと、体験しながら地元企業のことを親子で知ってもらう機会づくりに努めている。
- ・中心市街地における店舗数の推移は記載のとおりだと思うが、若い世代が起業する店舗の形が変わってきていると感じており、これから数値の取り方も変えていく必要がある。新しい企業として何が伸びていくのかという観点で捉えていただければと思う。
- ・従来から観点を变えて、河崎地区で古民家を再生したホテルを整備した。既にあるものに手を加えていくことでまちが変わっていく、古き良きまちづくりに取り組んでいる。神宮参拝後にその空気感を残した宿に泊まれるということなどで好評を得ている。
- ・インバウンドや若い方など、数値を見ながらまちづくりを考えていくことが大切だと思う。

○分野7 都市基盤

- ・デジタル技術の活用について、今後の方針は。
 - 工事の人員が不足しており、少人数でできるようにデジタルを活用していく。
- ・地籍調査の進捗が遅いと感じる。全国的に進んでいる地域とそうでない地域がある。
 - 進捗率は県平均と同程度の10.0%であるが、山林や田畑などを除くと進捗率は50%となっている。県内が遅れているのは取り組みが遅かったためと思う。
- ・バス利用者数はコロナ禍からの回復が緩やかな状況であり、利用促進に向けた取組が大切である。バスの重要性に対する市民の理解促進のため、まだまだ啓発が必要である。
 - 観光部門とも協力してバス利用者数の増加に取り組んでいきたい。

○分野8 市役所運営

- ・DX化、SNSを活用した広報、財源確保など、各種取り組みが進められており、3つの指標は「a」となっている一方、総括評価は「B」であり、やや控えめな評価となっている。
- ・行政においても近年は、人材確保に苦慮していたり、若手がすぐに辞めるなどの状況にある。そのような中、市職員の窓口や電話対応の満足度が高く、頑張りが見られる。

(2) 分野横断課題の暫定総括について

≪意見・質問など≫

- ・四郷地区では避難所マニュアルを作成し、これから周知を図っていく段階にある。避難所となる学校には複数の施設があり、また、複数の自治会が利用することとなる。それぞれの地域環境に応じた対策を講じていかなければならない。
- ・分野横断課題は数値指標がなく、評価が難しい。